棺墓、平安時代末から鎌倉時代前半の掘立柱建物・木棺墓・井戸、室町時代の溝等が多量の土器・石器・木器などの遺物を伴い検出された。

木簡は井戸より出土した。井戸は直径一・五m、深さ一mを測り、井筒として直径五〇cm、高さ三五cmの二段積の曲物が底に据えられていた。掘形の形態から、井戸枠・井桁等が存在していた可能性も考えられる。木簡は曲物内埋土から一点、井戸を廃棄したと考えられる上部の埋土から二点出土した。木簡の他に「十」の墨書のある瓦器碗や竈片が出土しており、これらから一三世紀初頭頃には廃絶した井戸と考えられる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「〈蘇民将来子孫宅也」　170×32×3　032

出土した木簡は三点とも同文であり、蘇民将来の名を記した呪符木簡である。おそらく同一人の筆になるものと思われる。隣接地で行われた小曽根遺跡第七次調査でも、「蘇民将来□□□□」の木簡が出土しており、この集落において「蘇民将来」に関する信仰が根強いものであったと考えられる。

9　関係文献

木簡学会『木簡研究』四号（一九八二年）

（森　幸三）

兵庫県教育委員会編
『山垣遺跡―兵庫県文化財調査報告書第七五冊―』
一九八三年に調査され、出土した木簡の内容から、丹波国氷上郡春部里に関わる遺跡と推定されている山垣遺跡の正報告書。二一点の木簡全点について、写真、実測図、釈文が掲載されている。
A4判、図版五九枚、本文八八頁、頒価一五〇〇円・送料三一〇円、兵庫県教育委員会　一九九〇年三月刊行
申込先・兵庫県氷上郡春日町黒井四九六の二
春日町歴史民俗資料館
TEL　〇七九五（七四）〇二二五